

## 茅葺古民家訪問記、大阪府能勢町長谷（ながたに）

岡 哲文

二〇一三年七月十四日。

能勢町長谷の茅葺き集落は棚田にまとまって建っており、内部公開をしている施設はない。大阪の緑地公園内に民家集落博物館という野外博物館がある。ちようと、川崎市立日本民家園のようなものだと考えていただければいい。その施設の中に、白川郷の合掌造り、南部の曲屋などと共に、能勢の茅葺き民家が移築されている。内部の詳しい説明は後述することにする。



能勢長谷の茅葺き民家。いずれも、京都の美山茅葺きの里と同じ入母屋造り。

「大阪の能勢町は、かつて大阪と丹波を結ぶ能勢街道や丹州街道が通っていたのどかな町である。」と今手元にある、二〇〇四年一二月版の「一個人」に記載されている。どのような場所であるのか、見てみたくなった。

大阪梅田に宿をとり、阪急梅田から宝塚線に乗って能勢川口で妙見線に乗り換え、山下駅で下車する。長谷の方へ行くバスの時刻表を見て驚いた。九時の次は一五時まで無く、その二便しか運行していない。地方だからバスの便が悪いだろうと思って事前に聞いておいたら、一時間おきにあるみたいな話だったから油断していた。どうやら私が間違えて別系統のバスの時刻を聞いたのかもしれない。突然のことで驚いたが、そうしていられないから、やむを得ずタク

シーに乗ることにした。トンネルをいくつかくぐると、いかにも山村という風景が広がってくる。都市部と違い、この辺りは若干気温が低めで、私が訪問した時は大体二五度ぐらいだった。然しそれでも暑くて、宿泊したユースホテルではクーラーなしでは寝られなかったし、昼、長谷の茅葺き民家を見終わって、ユースホテル着いたら汗だらけで、歩いて二〇分かかる能勢温泉に昼食と温泉に入りにはかないと気持ち悪いぐらいだった。

能勢長谷は柵田で有名で、「日本の柵田百選」や「にほんの里一〇〇選」にも選ばれ、四〇〇年にわたって守られてきた。然し、年に何度か、車で訪問しては茅葺き民家の写真を撮ったりする外部からの観光客が多いらしく、私も写真を撮っていたら、その家の持ち主から許可得て撮っているのかと怒られてしまったので、以降は持ち主の許可を得て撮影した。従ってここに掲載する写真は許可を得て撮影したものである。

この辺りは大阪の最北端に位置し、京都にも近い。二〇〇五年七月に私は京都の美山茅葺きの里を訪問したが、その茅葺き古民家と同じであった。この形を撰丹（せったん）型といい、字の如く撰津・丹波地方特有の入母屋造りである。

前述したような状況で、私有地に立ち入る訳だから、外観とかをゆっくり観察することはできなかった。

能勢に行く前日、前述した日本民家集落博物館に行つて、移築されている古民家の説明を受けた。大阪梅田から御堂筋線に乗つて「緑地公園駅」で下車して、歩いてすぐの所に大きな公園があり、その中にこの博物館がある。公園が広すぎて、案内板だけではよく分からないので、人に訊ねながらようやくたどり着いた。この古民家は、いずれも内部公開を行っているため、能勢の古民家の内部を知ることができる。

日本民家集落博物館は、日本各地の代表的な民家の移築復元、関連民具の展示もあわせて行うことを目的に一九五六年（昭和三一）に、日本で最初に設置された野外博物館で、北は岩手の南部の曲家から南は鹿児島県の奄美大島の高倉まで十二棟の民家を集めていて、そのほとんどは十七〜十九世紀に建築され、昭和三十年代まで人々が生活をしてきたものであり、川崎市の日本民家園より古い歴史を有している。

能勢の民家は旧泉家住宅といい、一七世紀の建築と推定される。一九六四年に国の重要文化財に指定され、一九五六年（昭和三一）に移築された。園内では最も古い建物であるパンフレットや、博物館内で売られている「民家の案内」

という本の写真は、いずれも土壁がはがれかけているが、私が見たときは屋根も壁も綺麗になっており、移築して間がないような綺麗な外観になっていた。三年前の平成二十二年に葺き替えと壁の塗り替えを行った。

部屋の間取りは「縦割り片土間型」という摂津と丹波の境地域のみ分布している特殊な間取りであり、片側が土間、もう一つの片側に部屋という、近畿北部の特徴的な間取りである。また屋根の妻側の破風板に、丸に桔梗の家紋と懸魚がとりつけられていることから、格式の高い家であったことが推定される。



### 能勢集落から移築した旧泉家住宅外観と囲炉裏

次に白川郷の民家、旧大井家住宅を見る。一八世紀中頃の建築と推定され、この民家も国の重要有形民俗文化財で、一九五九年（昭和三四）に認定された。移築されたのは、その三年前の一九五六年である。合掌造りとしては中規模で、この合掌造りの移築が、民家集落博物館のスタートであった。大井家住宅は、白川村大牧集落にあり、昭和三十一年に白川村で二番目に建設された鳩谷ダムの湖底に水没することになり、ダム開発を行った関西電力の助力により、本社のある大阪の服部緑地内への移築が決まった。大牧集落内では最も古い家の一つであり、最も特徴づけるのが、主屋の前の二つの小屋が取り付けられていることあり、現地にも残っていない非常に珍しい形である。

この二つの小屋は、右側を「へんちゃ」といって物置とトイレ、左側が「みんじゃ」といって台所であり内部とつながり、外から水を取って食事の準備や炊事を行った場所である。外観は白川郷の合掌造りと変わらず、目立った汚れ

等はない。囲炉裏のあるおえには蚕が実際に飼われていた。おえ、隣のちようだ、そして前述したみんじゃ内には、かつて使われていた民具が展示されている。中でも奥の仏間（ないじん）には、非常に大きな仏壇がある。この地は浄土真宗なので、真宗では非常に大きな仏壇を置くのである。



右から、旧大井家の外観と「へんちゃ」「みんじゃ」左側、みんじゃの内部と仏間にある大きな仏壇。

内部にはボランテイアの方も常駐しており、また白川郷の詳しい説明なども展示してある。白川郷、五箇山の公開している合掌造りは内部を改造しているケースが殆どで、合掌造りの古い形を見ることが出来る。

障子も真新しく、聞いた所、見学者が破いたりするため、二、三年に一度は張り替える。屋根の葺き替えも行うが、白川郷から呼ばず、大阪に一グループだけ残っているの、主にその人たちに頼んでいる。

昭和二〇年代の荻町や、水没前の御母衣（みほろ）の遠山家の写真も展示してある。

これ以外にもこの園内には南部の曲家、大和十津川の民家、日向椎葉の民家だけでなく、奄美大島の高倉、小豆島の農村歌舞伎舞台なども展示してある。尚、民家博物館内に食事処は無い。また入り口近くに自動販売機があるため、猛暑日の訪問時には、水分補給のため、あらかじめ水分を購入しておくことをお勧めします。

追記。

この度の大阪旅行で、茅葺き集落や民家博物館以外にぜひ見ておきたい場所が二つあった。

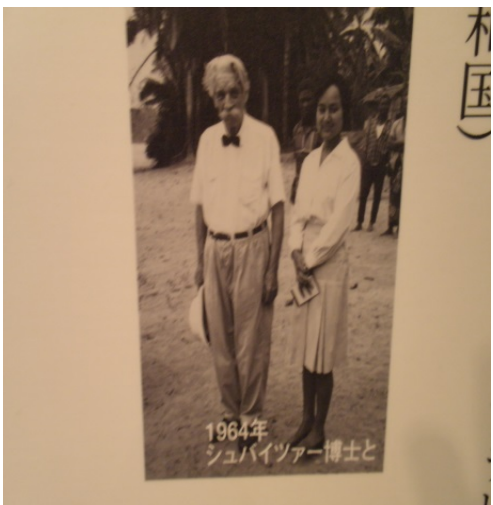
淡路島に「淡路ワールドパークONOKORO」という遊園地内に、当会の名誉会長である兼高かおるさんの「兼高かおる旅の資料館」があることを知った。一〇年以上前、確か二〇〇二年頃だと思うが、四国旅行の途上に淡路島を訪問し、こちらのONOKOROを訪問したことがあった。鬼怒川にある、東武ワールドスクエアみたいな所だったが、その頃の私は、まだ旅行ライターではなくて、兼高さんのことも全く存じ上げなかったせい、記憶にないのである。当会に入会してから、兼高さんのことを知ったのだが、私は残念なことに、番組を見たことがないから、事前に横浜の放送ミュージアムに行って検索した所、昭和六〇年のお正月に放送した兼高さんの旅の総集編（その時点での）があったので、それを見ておいてからこのミュージアムを訪問することにした。

能勢町のユースホテル近くから、朝一〇時近いバスで山下駅へ向かい、そこから妙見線、宝塚線を経由して十三で乗り換えて三宮駅へ行った。駅到着はお昼頃だったが、雨が激しい上に、淡路島東浦にも寄るため、昼食を取らずにバスターミナルへ直行し、東浦バスターミナル行の高速バスに乗る。東浦に着いた頃には台風のような天候になっていた。東浦バスターミナルからONOKORO方面に行く路線バスに乗って、一時間ほどで到着する。時間は十六時少

し前、まさに閉園ギリギリに入園することとなった。その頃には荒れた天気がうそみたいにおさまり、日が出て、猛暑が復活してきた。当然目的は兼高さんの資料館のみで、他に立ち寄る時間的余裕はない。

資料館内部は旅のコレクションや訪問国のパネル、テレビ画像で訪問した国の映像が、ナレーション付きで見られるようになっていた。また朴正熙大統領、ケネディ大統領、シュバイツァー博士に会った時の写真も展示してあった。他には各国の民芸品や人形も展示してあった。

前述した通り、私は兼高さんの旅番組を見たことがないが、それでもものすごい数の国や地域を訪問したことが分かり、もしどこかで見られるなら見たいとすら感じた。



ミュージアム外観と館内のパネル、写真、展示物。

ようやく満足いくまで館内をゆっくり見て、ONOKOROから三宮駅へ行くバスの時間に間に合うように、バス停へ向かった。ほどなくバスが来て、それに乗ったものの、連休中とあって三宮付近に渋滞が発生しているため、到着

時間が大幅に遅れることをご了承下さい。車内アナウンスが流れた。然し運転手の見事なテクニクにより、殆ど渋滞の影響もなく、定刻通りに三宮駅に到着し、JR線にて大阪駅に到着したのは一九時三〇分を過ぎていた。滞在するホテルが梅田の近くだったため、地下の食堂街で夕食を済ました。ホテルに到着したら汗まみれで、衣服がべとべととしていたため、何はともあれすぐに大浴場に直行したのは言うまでもない。その日は駆け足で淡路島まで行ったため、猛暑だった割にはすぐに寝ることができた。

翌日は大阪で一日自由にできたので、当会鉄道研究会の世話人、野田隆会員が著書、『出張ついでのローカル線 メディアファクトリー新書』や『にっぽん鉄道一〇〇景 平凡社』内で言及している南海汐見橋線汐見橋駅と木津川駅を訪問してみようと思いつき、実行に移した。更に時間が余るだろうから、大阪の路面電車を乗り鉄してみようとも思った。

汐見橋駅は桜川駅に隣接しているものの少し離れており、駅舎も昔ながらのたたずまいで、利用者もほとんどいない。本でも紹介されている沿線観光案内図をじっくり眺めてから、木津川駅に向かう。写真と文章だけでなんとなくイメージしていたが、以前、友人と海芝浦駅を訪問したことがあったから、海芝浦とどちらが秘境なのか知りたくなった。電車がホームに入ってきて、窓から外を眺めた瞬間、私は「ええ！本当に！」独り言が口から出てしまった。余りにもものすごい光景が広がっていたのである。

ホームに降りてみたものの、降りたのは数人程度、駅舎は錆びて駅表示板はへこんで読めなくなっていた。昔使っていたと思われるホームと線路は草ぼうぼうで駅前は何もなく、自動改札機だけが現代の象徴のように置いてある。駅近くは工場や倉庫だらけで人の気配は全くなく、ブルドーザーのやかましい音だけが鳴り響いていた。何だか一昔前にタイムスリップしてしまったかのような錯覚に陥ってしまう。海芝浦など及ばない空間であった。然もそのような環境のためか蚊がすごく沢山飛び回っており、汗まみれなこともあるかなり食われてしまい痒くて仕方がなく、三〇分後まで待っていられず、すぐ着た列車で汐見橋駅に折り返してしまった。

実際に本で読んだり、写真で見たりするより、自分で行って、この目で確かめてみるのでは、感じ方が全く違うことを痛感した。



通天閣の串カツ屋とたこ焼き屋で昼を済まして、路面電車の恵美須町電停を目指す。人に訊ねながらようやくやくたどり着いたものの、そこも平日の昼間だったためか、汐見橋駅同様に閑散としており、私以外に数人しか人がいなかった。乗った電車はあびこ道までしか行かず、浜寺方面に行くには乗り換えるしかない。住吉大社の広い神社の境内に圧倒されるが、路面電車の駅はコンクリートが盛り上がって駅名のポールが建っているだけで屋根のない眺めが続く。以前乗った岡山の路面電車でも同様の駅舎を見たことがある。都電荒川線や世田谷線ではこのような駅舎はないから、何だか不思議な感覚になる。浜寺で下車して、天王寺行に乗る。平日とはいえ、地元民が足代わりに利用しており、かなり混んでいた。車体は行きに乗ったあびこ道行は新しい車体だったが、すれ違う車体も旧型が多かった。



汐見橋駅に現在も掲げてある路線図。時代を感じる木津川駅舎とホーム。



データ。

日本民家集落博物館

電話番号 〇六・六八六二・三一三七 FAX 〇六・六八六二・三一四七

開館時間 九時三〇分～一七時まで。入館は一六時三〇分まで。

入館料 大人個人五〇〇円 高校生三〇〇円 小・中学生二〇〇円  
団体(二〇名以上)大人四〇〇円 高校生二〇〇円 小・中学生一五〇円

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日・振り替え休日の場合は翌日)。

交通 北大阪急行電鉄〈御堂筋線と相互乗り入れ〉「緑地公園」駅下車 西へ約一キロ。

阪急電鉄「曾根」駅下車 東へ二キロ。或いは曾根駅より阪急バス「桃山台駅」行きで「長興寺」下車、東へ一・二キロ。

車の場合 国道四二三号線(新御堂筋)から西へ約一キロ。服部緑地公園第一駐車場が最寄り。

URL <http://www.occh.or.jp/minka/>

淡路ワールドパークONOKORO

電話番号 〇七九九・六二・一一九二 FAX 〇七九九・六二・四六六四。

入園料 大人(中学生以上)一般八〇〇円 団体六〇〇円 障がい者四〇〇円  
円 子供(四歳～小学生)一般四〇〇円 団体三〇〇円 障がい者二〇〇円。

営業時間 三月～九月 九時三〇分～一七時三〇分。

一〇月～二月 九時三〇分～一七時。

夏休み期間中は九時三〇分～一八時。

休園日 年中無休。

駐車場 無料 乗用車一〇〇〇台 大型バス二〇台。

アクセス バス 三宮バスターミナル、またはJR舞子駅「高速舞子バス停」から「洲本高速バスセンター」行きにて、ワールドパークおのころバス停下車すぐ。

車 神戸淡路鳴門自動車道、津名一宮ICから国道二八号経由一五分。

URL <http://www.onokoro.jp>

※関西に詳しい方には周知のことだと思いますが、通天閣周辺は、大阪でも非常に治安が悪い地域なので、きよろきよろしながら歩いたりすると身の危険を感じることになりかねないのでご用心ください。夜間の通行は危険極まりないのでできれば避けて下さい。